

その1

土橋

— 頼朝の伝説をたずねて —

土橋地区について

土橋は多摩丘陵の平坦な台地に囲まれ、矢上川の沖積地を中心に広がっている。江戸時代から明治時代中期まで土橋村が成立していたが、明治22年(1889)に有馬村・馬絹村・野川村・梶ヶ谷村及び溝口村の飛地と合併して宮前村に発展した。昭和13年(1938)には川崎市に併合され、同47年には川崎市の政令指定都市移行に伴い高津区が誕生した。その後、同57年には人口の増加が著しく宮前区として分区された。土橋の歴史は古く、矢上川右岸の丘陵端から縄文時代後期の第六天遺跡が、宮崎第四公園西方台地から縄文時代後期の大野遺跡が発見されている。また域内の西部に鎌倉中道の支線が通過し、さらに東南部を大山街道が、北部を王禅寺道が通過しており、現在、東名高速道路の川崎ICがある。名産品のタケノコは、高品質で知られていた。



⑥ 犬蔵天神社



石造の天神像は、江戸時代中期の明和4年(1767)に立てられた。社前には、二十三夜塔・稲荷祠・馬頭観音・庚申塔が並ぶ。月待供養塔は、五穀豊穡や子孫繁栄を祈る二十三夜の月待行事を祈念したもので、勢至菩薩の銘が刻まれている。石段下の道は、土橋から水沢方面に連絡する旧道。

ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

① 八幡神社



「新編武蔵風土記稿」に石段の中央が土橋村と馬絹村の境にあり、片大門と呼ばれたと記されている。社殿には馬絹小台地区の御神体を祀る。明治43年(1910)に馬絹神社に合祀されたが、その後、現在地に戻された。石段下にある庚申塔は、正徳4年(1714)に立てられた。以前、大山街道はこの庚申塔の脇を通過していた。

② 土橋神社



江戸時代の創建と言う。当初、鎮守の大神宮が竹芝にあり、神明社・神明宮と称した。現在、土橋神社がある場所には八雲神社があり、明治40年(1911)に御嶽社・八幡宮・稲荷社など10社を合祀した。境内には庚申塔二基、地神塔、明治27年(1894)に建立された蚕影尊(こかげそん)がある。蚕影尊は摩耗が進み尊の字がわずかに読み取れる。文久3年(1863)、宿河原の長である関山五郎右エ門が「養蚕実験録」を著し、この地域の養蚕業発展に努めた。土橋も養蚕が盛んで、毎年4月頃に養蚕講が行われた。

③ 正福寺



天台宗医王山法徳院正福寺と称す。江戸時代中期に了廊阿闍利により開山された。本尊の薬師如来立像は寅年に開帳。江戸時代末期に火災に遭い、第六天社とともに焼失し、現在地に再建された。入口横にある馬頭観音は道標を兼ねており、王禅寺道から移されてきた。「南大山道 東二子道 北登戸道 西王禅寺道」と記されている。

④ 土橋観音堂

本尊は千手観音菩薩立像。準西国稲毛三十三ヶ所観音霊場第30番札所。安政2年(1855)に平の観音堂が廃寺になった際、柴原氏が現在地に移築した。堂内に聖徳太子像も祀る。

⑤ 鎌倉古道

土橋・犬蔵を経て、枳形山に通じる道で、茶筌松・鞍掛松・土橋などの源頼朝伝説地がある。土橋は、川に丸太を渡し土盛りした橋で、橋の長さ1間、幅4尺と伝える。矢上川と支川の合流点をドンドン川と呼ぶ。

⑦ 梵天山



現在は、鷺沼北公園に整備されている。園内には国土地理院が設置した二等三角点があり、標高87.5mを指している。付近一帯の最高地点であり、晴天にはスカイツリー・東京タワーなどを展望できる。この辺りを鎌倉古道が通り、近くには分去(わかされ)と言う地名や、頼朝伝説の鞍掛松などがあつた。

⑧ 土橋地藏堂

創建は不明であるが、鎌倉時代から付近にある墓地の墓守地藏として存在したと伝えられる。本尊は、木造の延命地藏尊坐像。都筑橘樹郡地藏霊場第22番札所で、酉年に開帳。堂内には閻魔王像もある。

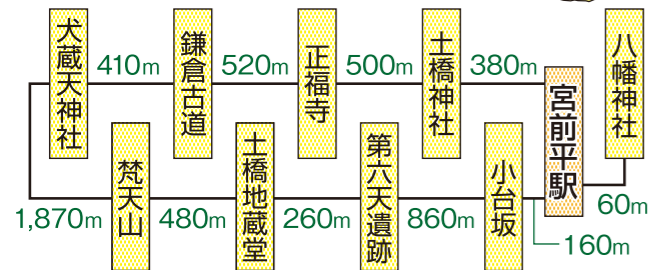
⑨ 第六天遺跡

縄文時代後期の集落跡で、加曾利E式土器・勝坂式土器・堀之内式土器のほか、打製石斧・磨石・石鏃などを出土。同時に祭祀用に使用されたと考えられる環状列石(ストーンサークル)も発見されている。

⑩ 小台坂

大山街道の急坂。坂の麓には、準西国稲毛三十三ヶ所観音霊場第26番観音堂があつたが、江戸時代末期に火災で焼失し、本尊は泉福寺に移された。街道沿いには茶・酒・草鞋などを売る下の店や、菓子を売る上の店があつた。

全長
約5.5
km



インフォメーション: [宮前平駅] へのアクセス

(電車) 東急田園都市線・各駅停車をご利用ください。

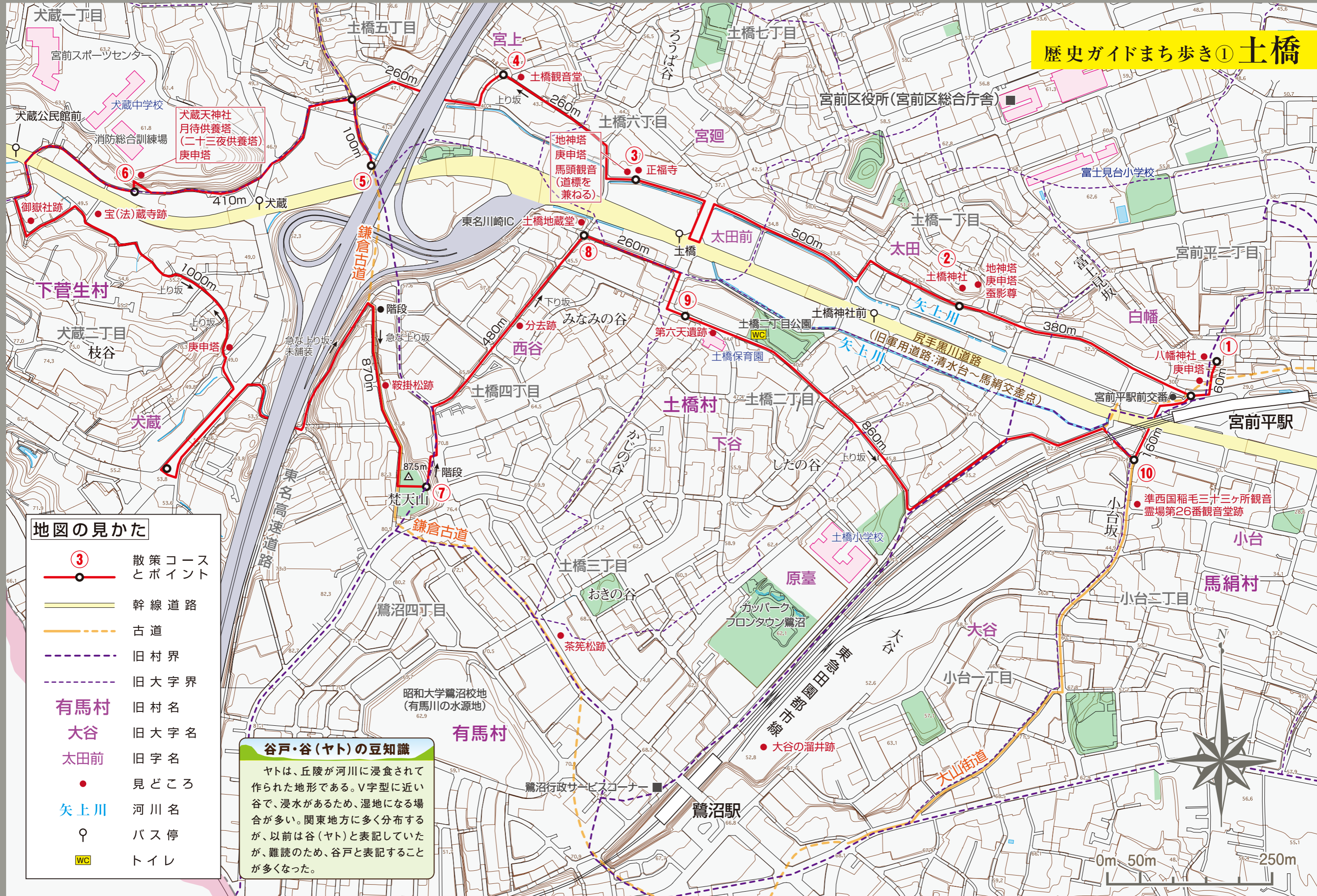
(バス) 「生田駅」「溝口駅南口」「聖マリアンナ医科大学前」などから[宮前平駅]行きにお乗りください。

参考文献

『新編武蔵風土記稿二』 昭和44年 歴史図書社
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所所蔵
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

歴史ガイドまち歩き① 土橋



地図の見かた

- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- - - 古道
- - - 旧村界
- - - 旧大字界
- 有馬村 旧村名
- 大谷 旧大字名
- 太田前 旧字名
- 見どころ
- 矢上川 河川名
- ♀ バス停
- WC トイレ

谷戸・谷(ヤト)の豆知識

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。